

みずのわ

学校だより
【第2号】
令和4年4月27日(水)
石巻市立石巻小学校

【補欠にて】

補欠とは、「欠員を補うこと」、「控えの者」という意味になると思いますが、いわゆる業界(学校)用語では、「担任が出張等で不在の場合の代わりをすること」を指します。先日、出張者等が数人出てしまった時、私も3年2組の補欠に入りました。通常、補欠の先生は、担任が用意した課題を行うことが多いのですが、私は、自分で授業がやりたくて、「国語(詩)」の学習をさせてもらいました。

3年生の国語の教科書の最初のページに「春の子ども」という詩が載っているのですが、子供たちは、まだ「詩」という言葉を理解していませんでした。そんな子供たちに少々乱暴な気もしましたが、「詩をつくってみよう」というゴールを設定して学習を進めました。

「詩」が何たるものかを知らない子供たちが、たった1時間の授業の中でどれだけできるのか懐疑的ではありましたが、たくさんの詩を紹介しながら、詩にはルールがないこと、「見たとおりに」、「したとおりに」、「感じたとおりに」のことを3~4行くらいの言葉にすればよいことを伝え、加えて、「言葉を繰り返す」、「(人に)例える」という技法を使うと詩は生き生きしてくるということも教えました。

すると・・・次々に傑作が生まれました。

でんしゃの音 遠藤龍ノ助

ガタン ゴトン
音がうるさくて
耳がこわれた

○「耳がこわれた」という表現で、いかに電車の音がうるさかったか分かります。

いす 千葉蘭々香

いつも わたしを
だっこしてくれてる
すごく かんしゃしている

○「だっこ」という表現が素敵ですね。物にも思いやる気持ちが表れていて素晴らしい。

学校帰り 鶴岡大輝

やっと帰る
やっとだよ
あつ ふでばこ わすれた
もういやだ

○学校で相当頑張った。早く帰りたい。なのに、忘れ物をして・・・気持ちを表す言葉選びがとても上手です。

とけい 鈴木悠真

チクタク
そんなにいそぐな
ゆっくりしろ

○休まず動く時計を気の毒に思ったのか・・・この詩は完全に擬人法のテクニックです。

子供たちは、1時間の中で集中して頑張りましたが、残念ながら作品の完成に至らなかった子供もいました。次の機会にチャレンジしてもらいます。

(校長／川田知宏)